

1 本年度の重点教育目標

| |
|---|
| (1)生徒の希望を叶える進路の実現 (2)充実した特別活動を通し、豊かな人間性とたくましく生き抜く力の育成 (3)地域の発展を支える人材の育成 |
|---|

2 本年度の取組の重点

| |
|---|
| (1)主体的に学び、考え、変化する社会を生きていける資質・能力を育成する。(基礎力、思考・分析力) (2)多様な人々と協働し、主体的に社会の発展に寄与しようとする意欲や態度を育成する。 (傾聴力、自己肯定力、他者理解力、発信・表現力) (3)課題解決に向け計画的・持続的に取り組むために、心を整え、健康を保持し、体力を養うことができる自己管理能力を育成する。 (計画・実行力、ストレス対応力) (4)函館や道南への愛着や誇りを抱きながら、世界的視野で地域を考え、行動できるグローバルな人材としての素養を育成する。 (課題解決・創造力) |
|---|

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

| 分野 | 評価項目 | 自己評価結果 | | 学校関係者評価 | | |
|--------------|--|--------|--|----------|----------|--|
| | | 達成状況 | 改善の方策 | 自己評価の適切さ | 改善の方策の評価 | 主な意見(改善策など) |
| 学校経営 | 生徒の実態や保護者、地域社会の願いを踏まえた教育目標になっている。 | a | 生徒や保護者の願いを踏まえ、引き続き、教育目標の検証・改善に努める。 | A | A | 教育目標や指導方針は保護者・地域にも周知され十分説明がなされている。今後も積極的に保護者・地域の意見の吸い上げ、学校運営に反映させていく必要がある。 |
| | 教職員の服務規律が適切に保持されている。 | a | 服務に関する研修を充実させ、当事者意識を高める。 | A | A | |
| 教育課程 学習指導 | 単位制の趣旨を生かし、進路実現に結びつく教育課程が編成・実施されている。 | b | 来年度からの新教育課程の実施に向け、常に検証や見直しを図っていく。 | B | A | 本校の単位制の在り方について、全教員が理解を深め、学習指導の効果を高めることが大事である。今後も学校の更なる魅力化につなげて欲しい。 |
| | わかりやすい授業を行い、自ら学ぶ意欲を高めるなど教科指導の工夫に努めている。 | a | 生徒個々の学びの状況をよく把握し、内発的動機付けを高める評価方法を充実させる。 | B | B | |
| 生徒指導 | 校内外における生徒の実態把握に努め家庭・地域社会・関係機関との連携の上、一人ひとりに対応した指導が行われている。 | a | 一人ひとりの生徒の特性や状況をよく理解し、自己肯定感・自己有用感が高められるような指導の充実を図る。 | A | A | 一貫して生徒の自主性・自立の精神を育てる指導がされている。生徒の意識も高い。PTAを始め、保護者・地域が積極的に学校活動に関与し、地域との連携につながっている。 |
| | 交通安全指導が適切に行われている。 | a | 生徒が主体となった交通安全に係る啓蒙活動を充実させる。 | A | A | |
| 進路指導 | 総合的な探究の時間などを通じ、自己の生き方を考える姿勢を養い、夢に向かって挑戦する志を涵養する。 | a | 課題研究論文作成や地域探究学習などが、自らのキャリア形成に直結するよう、教科横断的に俯瞰する視点を持たせる。 | A | A | 3年間を見通した進路指導の全体像について、生徒や保護者に対してガイダンスや説明がなされている。また、生徒の希望や意思を尊重した指導がなされている。 |
| | 進路選択のためのガイダンスが効果的に機能している。 | b | 3年間を見通したガイダンス計画を検証し、系統的・継続的な指導をより一層充実させる。 | B | A | |
| 健康・安全指導 | 教育相談等を通して生徒の抱える悩み等に適切に対処している。 | a | 不登校傾向にある生徒やその保護者への対応についての指導を充実させていく。 | A | A | 必要に応じて面談等を行うなどして、個々の生徒理解を充実させている。 |
| 特別活動 | 生徒会行事、部活動等に全教職員の協力が得られ活性化されている。 | b | コロナ禍の中で、どのような活動ができるのか、効果的なのかを検証し、来年度の活動に反映させる。 | A | A | コロナ禍で活動に制約がある中、生徒会行事が生徒主導で行われている。 |
| 地域との連携 | 保護者や地域からの意見を積極的に聴取し学校改善に役立てている。 | b | 学校運営協議会(CS)の中で、保護者・地域等から広く意見を聴取するなどし、学校運営に反映させる。 | B | B | 「函館学」を中心に、他の教育活動においても、地域との連携を大切に取組んでいる。 |
| | 「函館学」を通して、生徒に郷土を愛する気持ちを養っている。 | a | 学校運営協議会(CS)等から意見をいただき、引き続き「函館学」の充実に努める。 | A | A | |

■ 自己評価達成状況

| | |
|---|-----------------|
| a | ほぼ達成できた (8割以上) |
| b | 概ね達成できた (6割以上) |
| c | 十分ではない (4割以上) |
| d | 達成できなかった (4割未満) |

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

| | |
|---|--------------------------------|
| A | 自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。 |
| B | 自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。 |
| C | 自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。 |
| D | 自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。 |